

2017 年度後期 学生授業評価アンケート結果に対するコメント
—全学共通教育—

共通教育研究センター長 相澤 正彦

全学共通教育科目の前期開講科目のうち、アンケート対象科目は210科目であり、このうち15科目をのぞく195科目についてアンケートが実施されました（実施率92.8%）。内訳は実施必須科目では132科目中、実施された科目は128科目（95.4%）、任意科目では78科目中、実施されたのは67科目でした（85.9%）。協力を頂いた学部生のみなさんは延べ6,015名にのぼりました。この場を借りて御礼申し上げます。またアンケートの実施に対し、貴重な授業時間を割いてご協力頂いた先生方にも深く感謝いたします。

周知のように個別科目の集計結果はCampus Squareから自由に閲覧することが可能です。おおいに利用していただきたいと思います。さて、授業の満足度を示す「総合的にこの授業を評価できる」の平均は、5段階評価で4.30であり、大学全体4.38よりもやや下回りますが、全学の講義科目の4.31とほぼ同じ平均ぐらいの水準にあるといえましょう。12の項目の中で11項目が4.0以上の高い評価を得ています。

個別項目と「総合的にこの授業を評価できる」との相関で見ると、例年、相関係数がトップの位置にある「この分野の関心と学力が得られた」は0.80という高い数値を示しています。これは前期アンケートを幾分下回りますが、4学部の数値と比較して若干上回るか、もしくは同等であり、各授業の充実度を示すものと言えます。またこのことは「授業への教員の熱意を感じた」が0.67という前回と同数値の高い数値を示していることとも同調するものと思われ、教員のみなさんの不断のご努力によるものと、重ねて謝意を表する次第です。

さて全学共通教育科目においても、アクティブラーニングの促進を連年、奨励しておりますが、前期には4.0に届かなかった唯一の項目が、「教員は発言・議論等の授業参加を促した」の3.57であり、努力課題でありましたが、今回は3.65と上昇しました。一方で、前期は学生の「予習または復習をよくした」が3.10と下降傾向にありましたが、今回は3.23と2016年度後期の数値まで盛り返しました。この二つの上昇数値は連関するもので、教員みなさんの積極的な授業参加への促しが、学生にも通じた証しといえるでしょう。

スポーツ・ウェルネス実技科目については、「総合的にこの授業を評価できる」が前期は4.81と連年と同じく極めて高い数値を示しておりましたが、今回の4.80もほぼ同じ数値で、変わらず高い段階を維持しているといえましょう。また「運動量は十分であった」の数値が前期4.81に比べ今回は4.73と下回りましたが、「体の健康等を見直す機会になった」が前期4.77に比べ今回は4.78とほぼ同じ数値を示し、いずれも高い数値を維持しているといえます。ここには学生におけるスポーツ・ウェルネスへの関心の高まりと教員みなさんの熱意がうかがわれます。

全学共通教育科目は、教養科目、外国語科目、スポーツ・ウェルネス科目、IT科目、WRD科目、データサイエンス科目という構成からなり、基本的な学問体系を学べるよう、また今日的な諸問題に取り組むことができる教養や知力、スキルを習得できるよう、多岐にわたる科目が配されています。このアンケートを通じ、今後も質の高い授業を学生のみなさんに提供していこうと考えています。